

はじめに

津久見市の中学校入学生徒数は、昭和 27（1952）年の 1,153 人をピークとして減少を続け、令和 2（2020）年 4 月現在、116 人となっています。その結果、昭和 26（1951）年の市制施行時には 7 校あった中学校が休校・廃校となり、令和 2（2020）年 4 月現在は、第一中学校と第二中学校の 2 校となっています。

第一中学校入学生徒数は、最大時の 359 人から、現在、令和 2（2020）年度は 73 人となっており、第二中学校は、最大時の 481 人から、現在、令和 2（2020）年度は 43 人となるなど、急激かつ大幅に減少しています。

これまで津久見市教育委員会では、平成 17（2005）年 3 月 30 日「津久見市立小中学校適正規模、適正配置についての基本方針」を決定し、日代中学校を第一中学校に統合、四浦東中学校の久保泊小学校区の中学生については第一中学校に統合することなどにより、子どもたちの教育環境を整備してきました。

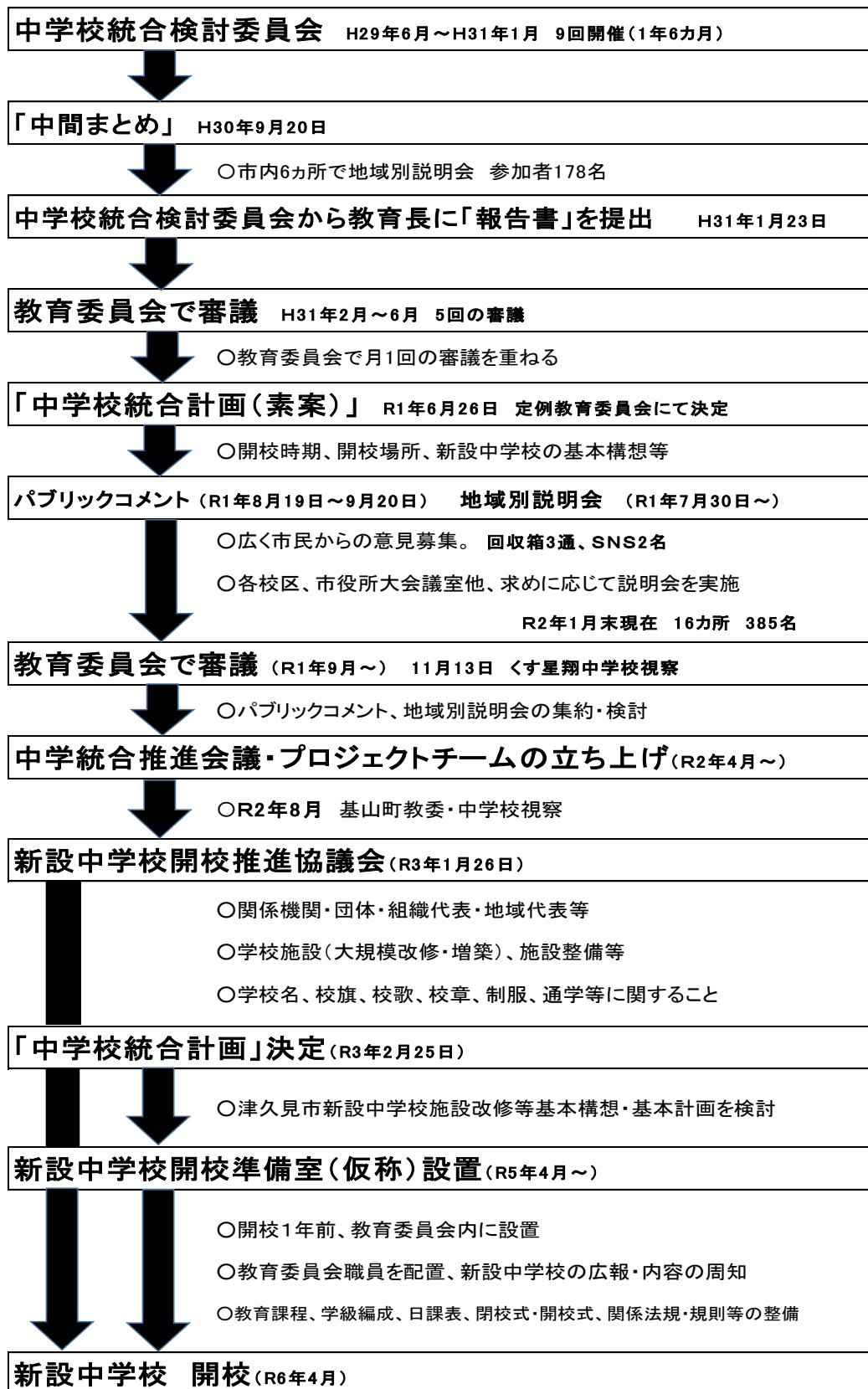
県内や全国の市町村においても小中学校の統廃合が進む中、文部科学省から平成 27（2015）年 1 月 27 日付けで「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」が示され、「地域の実情に応じて各市町村において教育的な視点から少子化に対応した活力ある学校づくりの方策を検討・実施すること」が求められています。

このような状況の中、PTA 関係者・学校関係者・商工会議所・区長会等からなる第一中学校・第二中学校統合検討委員会を設置し、平成 29（2017）年 6 月 30 日から 9 回（約 1 年 6 ヶ月）にわたって議論を重ねてきました。その間、「中間まとめ」を発表して地域別説明会を重ねるとともに先進地視察等を行ってまいりました。そして、平成 31（2019）年 1 月 23 日には、検討委員会委員長から教育長へ「報告書」を提出していただきました。

教育委員会では、この「報告書」の内容を踏まえ 5 回の審議を重ねて「統合計画（素案）」をとりまとめました。この「統合計画（素案）」に対して令和元年 7 月から地域別説明会、8 月 19 日からはパブリックコメント募集（～9 月 20 日）を行い、広く市民の皆様からご意見・要望等を伺いました。又、令和 2 年度からは 30 回に及ぶ中学校統合推進会議等を行いました。これらのご意見等を参考にしながら更に慎重な審議を重ねて「統合計画」を決定いたしました。

この「統合計画」はあくまでも現段階での計画の骨子や方針であり、今後は、この計画を基に「新設中学校開校推進協議会」において、広く市民の皆様からのご意見をお聞きしながら、新設中学校の開校に向けたより具体的な協議を進めてまいります。協議にあたっては「真に子どものための学校づくりはいかにあるべきか」を中心に据えてまいります。

【中学校統合検討委員会から今後の計画】

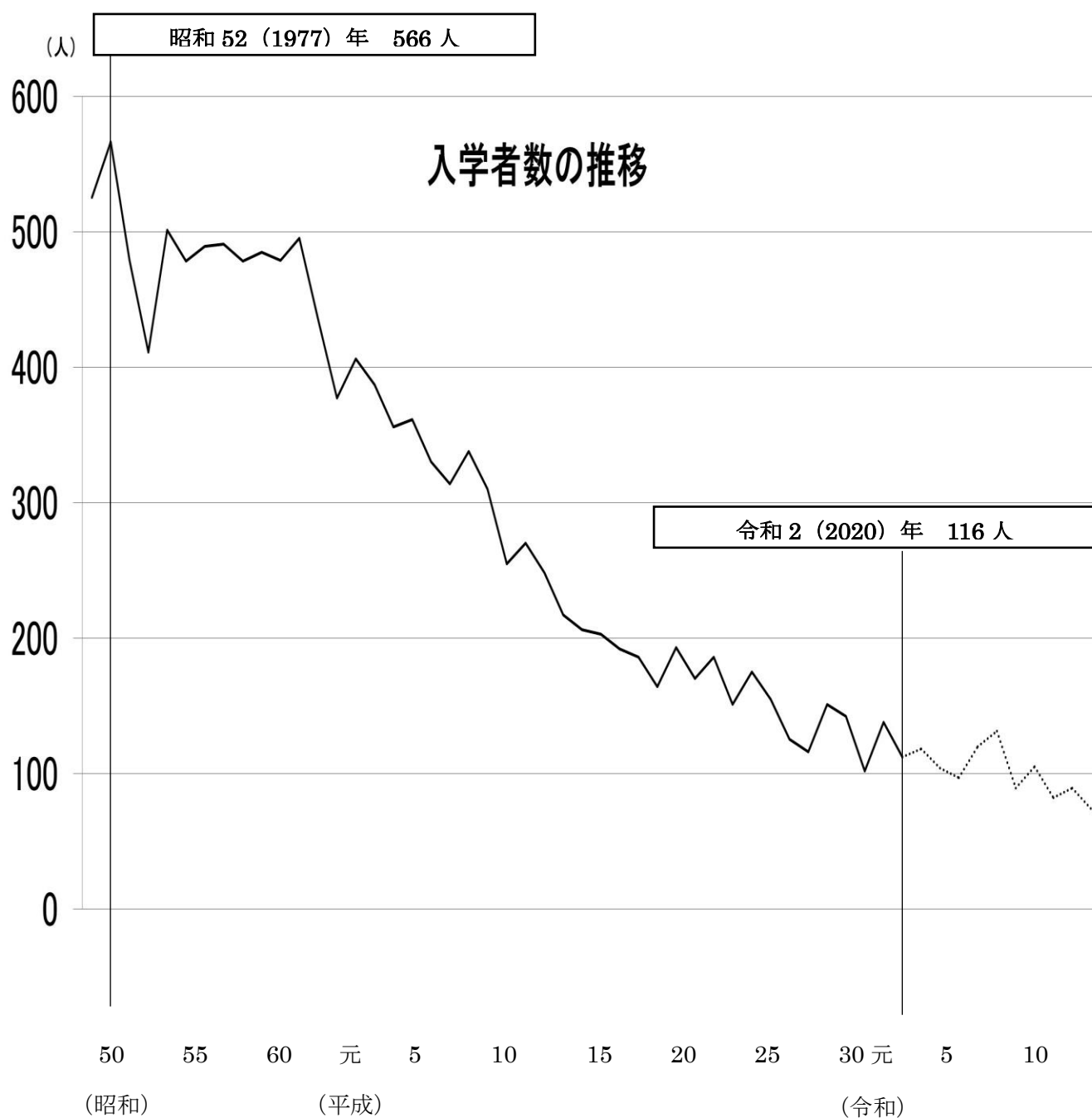


市長部局と事務局との協議

I 中学校統合の背景

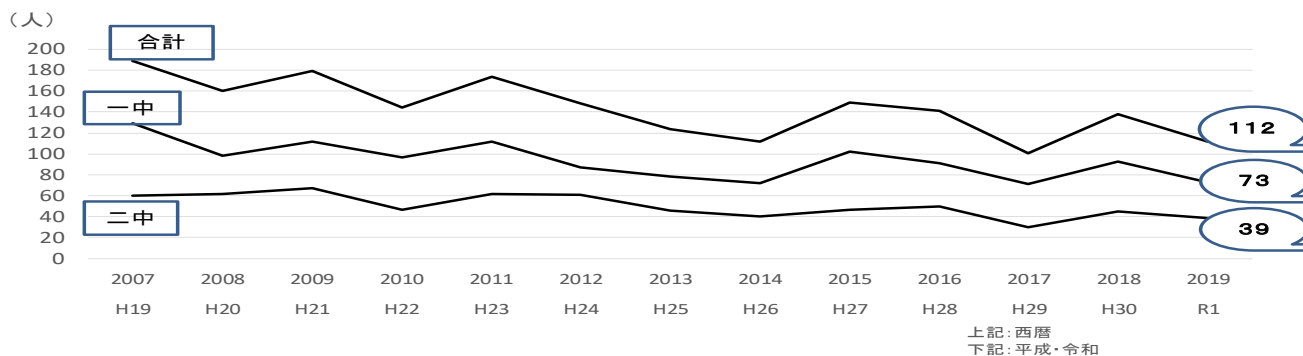
1. 急激な生徒数の減少

中学校入学者数の推移を下のグラフで表しています。
昭和 52（1977）年の 566 人と比べると令和 2（2020）年は 116 人となり、急激に減少している状況がわかります。



2. これまでの入学生徒数の推移

年度（平成） （西暦）	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019
合 計(人)	189	160	179	144	174	148	124	112	149	141	101	138	112
第一中学校	129	98	112	97	112	87	78	72	102	91	71	93	73
第二中学校	60	62	67	47	62	61	46	40	47	50	30	45	39

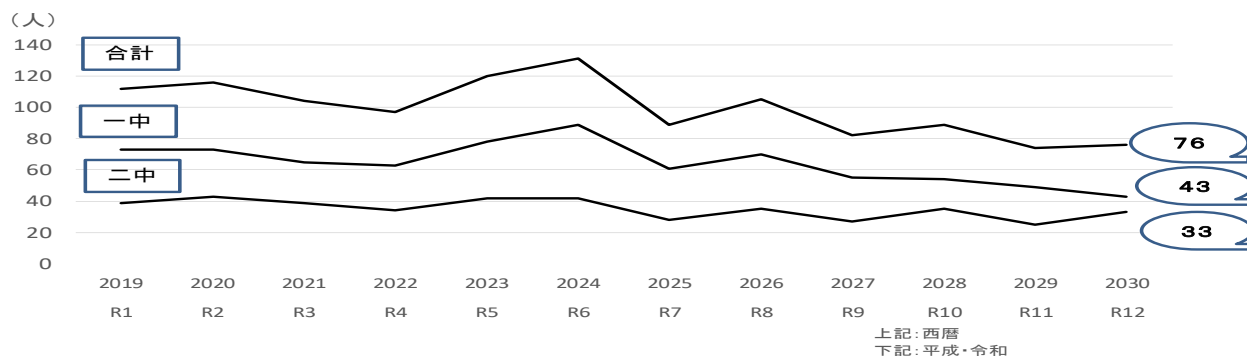


過去 10 年程度からの津久見市の中学校入学生徒数の推移は、平成 19（2007）年の合計 189 人に比べて、令和 1（2019）年は 112 人となり、3 分の 1 以上の減少となっています。年度によっては、若干の増減はありますが、全体として減少傾向にあることは間違いありません。

3. 今後の入学生徒数の推移

年度（平・令） （西暦）	R1 2019	R2 2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030
合 計(人)	112	116	104	97	120	131	89	105	82	89	74	76
第一中学校	73	73	65	63	78	89	61	70	55	54	49	43
第二中学校	39	43	39	34	42	42	28	35	27	35	25	33

2020（令和2年）年6月現在



- (※) 近年においては、出生時の人数から中学校入学時まで、毎年 10 人前後の児童が減少しているのが実情です。
- (※) 生徒数の減少は学級数の減少につながり、さらには教職員の配置数に大きく影響を与えることとなります。

このような実情に鑑み、津久見の子どもたちが新たな社会に適切に対応し、互いに切磋琢磨しながら、たくましく生き抜いていくためにも、子どもたちにとってより良い教育環境を整備していくことが重要です。したがって、生徒が急激に減少している状況を見据えて、第一中学校と第二中学校との「発展的な統合」が必要です。

Ⅱ 中学校統合の基本的な考え方

1. 適正な学校規模

小学校・中学校ともに 12 学級以上 18 学級以下の学校

中学校では 1 学年 4 学級～6 学級の規模

なぜ適正規模なのか？

児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ、小・中学校では、一定の集団規模が確保されることが望ましいという考え。

(公立小学校・中学校の適正規模、適正配置等に関する手引き 平成 27 年文部科学省)

(1) 現状と課題

① 学級数の推移

第一中学校					第二中学校				統合後の状況			
学年 年度	1 年	2 年	3 年	合計	1 年	2 年	3 年	合計	1 年	2 年	3 年	合計
R1 2019	2(3)	3	2	7(8)	1	2	1	4	3(4)	4	3	10(11)
R2 2020	2(3)	2	3	7(8)	2	1	2	5	3(4)	3	4	10(11)
R3 2021	2(3)	2	2	6(7)	1	2	1	4	3(4)	3	3	9(10)
R4 2022	2(3)	2	2	6(7)	1	1	2	4	3(4)	3	3	9(10)
R5 2023	2(3)	2	2	6(7)	2	1	1	4	3(4)	3	3	9(10)
R6 2024	3	2	2	7	2	2	1	5	4(5)	3	3	10(11)
R7 2025	2(3)	3	2	7(8)	1	2	2	5	3(4)	4	3	10(11)
R8 2026	2	2	3	7	1	1	2	4	3(4)	3	4	10(11)
R9 2027	2	2	2	6	1	1	1	3	3(4)	3	3	9(10)
R10 2028	2	2	2	6	1	1	1	3	3(4)	3	3	9(10)
R11 2029	2	2	2	6	1	1	1	3	2(3)	3	3	8(9)
R12 2030	2	2	2	6	1	1	1	3	2(3)	2	3	7(8)

※1) 特別支援学級は除く。

※2) ()内の数字は、大分県30人学級措置(中1のみ)による。

② 中学校教科別教員構成基準

(大分県教育委員会における市町村立小・中学校の学級編成及び教職員配当数)

学級規模 (全校)	配当定員	教 科 別 構 成 基 準											
	計(人)	校長	教員	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技術	家庭	英語
3	8	1	7										
4	9	1	8	1	1	1	1	0.5	0.5	1	0.5	0.5	1
5	9	1	8	1	1	1	1	0.5	0.5	1	0.5	0.5	1
6	11	1	10	1.5	1	1.5	1.5	0.5	0.5	1	0.5	0.5	1.5
7	13	1	12	2	1.5	1.5	1.5	0.5	0.5	1.5	0.5	0.5	2
8	15	1	14	2	2	2	2	0.5	0.5	1.5	0.5	0.5	2.5
9	16	1	15	2.5	2	2	2	0.5	0.5	2	0.5	0.5	2.5
10	18	1	17	2.5	2	2.5	2.5	1	1	2	0.5	0.5	2.5
11	19	1	18	2.5	2.5	2.5	2.5	1	1	2	0.5	0.5	3
12	20	1	19	3	2.5	3	2.5	1	1	2	0.5	0.5	3

【令和2（2020）年度】

	学級	定員(人)	校長	教員	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技術	家庭	英語
一中	7	13	1	12	2	1.5	1.5	1.5	0.5	0.5	1.5	0.5	0.5	2
二中	5	9	1	8	1	1	1	1	0.5	0.5	1	0.5	0.5	1

※1) 第二中学校では、すべての教科が1名以下の教員配置。



統合後	10	18	1	17	2.5	2	2.5	2.5	1	1	2	0.5	0.5	2.5
-----	----	----	---	----	-----	---	-----	-----	---	---	---	-----	-----	-----

※2) 統合後は、国語・数学・英語等の教科は複数教員配置。

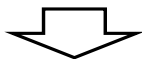
【令和6（2024）年度】

	学級	定員(人)	校長	教員	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技術	家庭	英語
一中	7	13	1	12	2	1.5	1.5	1.5	0.5	0.5	1.5	0.5	0.5	2

※1) 第一中学校では、数学の教科は複数教員配置に届かない。

二中	5	9	1	8	1	1	1	1	0.5	0.5	1	0.5	0.5	1
----	---	---	---	---	---	---	---	---	-----	-----	---	-----	-----	---

※2) 第二中学校では、すべての教科が1名以下の教員配置。



統合後	10	18	1	17	2.5	2.5	2.5	2.5	1	1	2	0.5	0.5	2.5
-----	----	----	---	----	-----	-----	-----	-----	---	---	---	-----	-----	-----

※3) 統合後は、国語・数学・英語等の教科は複数教員配置。

【令和12（2030）年度】

	学級	定員(人)	校長	教員	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技術	家庭	英語
一中	6	11	1	10	1.5	1	1.5	1.5	0.5	0.5	1	0.5	0.5	1.5

※1) 第一中学校では、国語・数学・英語等の教科は複数教員配置に届かない。

二中	3	8	1	7										
----	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※2) 第二中学校では、一人の教員が、複数の教科を担当しなければならない。



統合後	7	13	1	12	2	1.5	1.5	1.5	0.5	0.5	1.5	0.5	0.5	2
-----	---	----	---	----	---	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---

※3) 統合後は、国語・英語等の教科は複数教員配置。

③部活動の現状

令和2（2020年）5月

○第一中学校

（男子）

部 \ 学年		1	2	計	3	合計
1	軟式野球	8	4	12	10	22
2	サッカー	0	11	11	3	14
3	ソフトテニス	12	4	16	8	24
4	陸上競技	4	0	4	11	15
5	水泳	0	1	1	2	3
6	バスケットボール	2	6	8	6	14
7	バレーボール ▲	0	0	0	0	0
8	卓球	4	2	6	5	11
9	剣道	0	0	0	0	0
10	★バドミントン	1	0	1	1	2
11	★体操	1	1	2	0	2
12	美術	1	0	1	0	1
13	吹奏楽	0	0	0	1	1
14	★空手	1	1	2	0	2
	合計	34	30	64	47	111
	無所属	3	4	7	2	9
	総計	37	34	71	49	120

▲は活動なし

★は社会体育

（女子）

部 \ 学年		1	2	計	3	合計
1	軟式野球	0	0	0	1	1
2	サッカー▲	0	0	0	0	0
3	ソフトテニス	7	4	11	0	11
4	陸上競技	1	6	7	4	11
5	水泳	1	0	1	1	2
6	バスケットボール	4	6	10	0	10
7	バレーボール	3	6	9	4	13
8	卓球	0	1	1	5	6
9	剣道	0	7	7	0	7
10	★バドミントン	3	0	3	0	3
11	★体操	0	0	0	1	1
12	美術	6	4	10	4	14
13	吹奏楽	11	3	14	18	32
14	★空手	0	1	1	0	1
	合計	36	38	74	38	112
	無所属	0	1	1	4	5
	総計	36	39	75	42	117

▲は活動なし

★は社会体育

○第二中学校
(男子)

令和2(2020)年5月

部 \ 学年		1	2	計	3	合計
1	軟式野球	4	2	6	5	11
2	サッカー ▲	0	0	0	0	0
3	ソフトテニス ▲	0	0	0	0	0
4	陸上競技	6	2	8	6	14
5	★水泳	0	3	3	0	3
6	バスケットボール	9	5	14	6	20
7	バレーボール ▲	0	0	0	0	0
8	★剣道	0	0	0	1	1
9	★柔道	0	0	0	1	1
10	美術	4	2	6	0	6
11	吹奏楽	0	3	3	0	3
	合計	23	17	40	19	59
	無所属	1	3	4	5	9
	総計	24	20	44	24	68

(女子)

部 \ 学年		1	2	計	3	合計
1	軟式野球	0	0	0	1	1
2	サッカー ▲	0	0	0	0	0
3	ソフトテニス	4	1	5	6	11
4	陸上競技	0	0	0	5	5
5	★水泳	0	0	0	0	0
6	バスケットボール	6	4	9	1	10
7	バレーボール	2	6	8	4	12
8	★剣道	0	0	0	0	0
9	★柔道	0	0	0	0	0
10	美術	2	2	4	0	4
11	吹奏楽	3	6	9	3	12
	合計	17	19	36	20	56
	無所属	2	0	2	1	3
	総計	19	19	38	21	59

▲は活動なし

★は社会体育

(2) 統合の方向性

生徒が充実した中学校生活を送り、豊かな将来を築く基礎を培うための教育環境を整備するため、適正規模化を進め教育水準の向上を図ります。

【適正規模の学校が必要な理由】

○小学校と異なり、中学校では高校入試を控え、厳しい現実の社会が目前です。社会性・自主性・協調性等を育むためには、多くの個性的な生徒と出会い、日々の学校生活の中で、お互いに切磋琢磨する環境が大切です。

○進学などの進路希望に適切に対応するには、教科の専門性を確保することが大切です。そのため、国語、数学、理科、社会、英語などの専門の教員を複数配置することで、教科の専門性がより高められ、充実した指導が受けられます。さらに、多くの先生との出会いも重要な環境づくりです。

○自分の興味・関心に応じて、多くの部活動の中からやりたい種目を選択できることも、個々の願いを尊重するためには重要なことです。

2. 統合の考え方

将来の津久見市の中学生のあるべき姿を見据え、これまでの既成概念にとらわれない統合を進めます。

小規模となった学校を適正規模の学校に統合することにより、津久見の子どもたちが、他の地域（中・大規模校）の子どもたちと、学ぶ環境に差ができないよう、より一層充実した教育環境を整備します。さらに、既成概念にとらわれず、学力向上を柱とした、「特色・魅力・活力ある学校づくり」を進めます。

そのため、以下の3点を基本的な考え方として、統合を進めます。

- ①教育の機会均等を踏まえた教育環境の整備を行います。
- ②教育水準の維持向上を図ります。
- ③津久見という地域の特性を活かした学校づくりを進め、
地域とともに学校の活性化を図ります。

3. 統合の方法

統合については、下図のように、第一中学校と第二中学校の伝統や特色を活かしつつ、まったく新しい学校を設置する「発展的統合」とします。

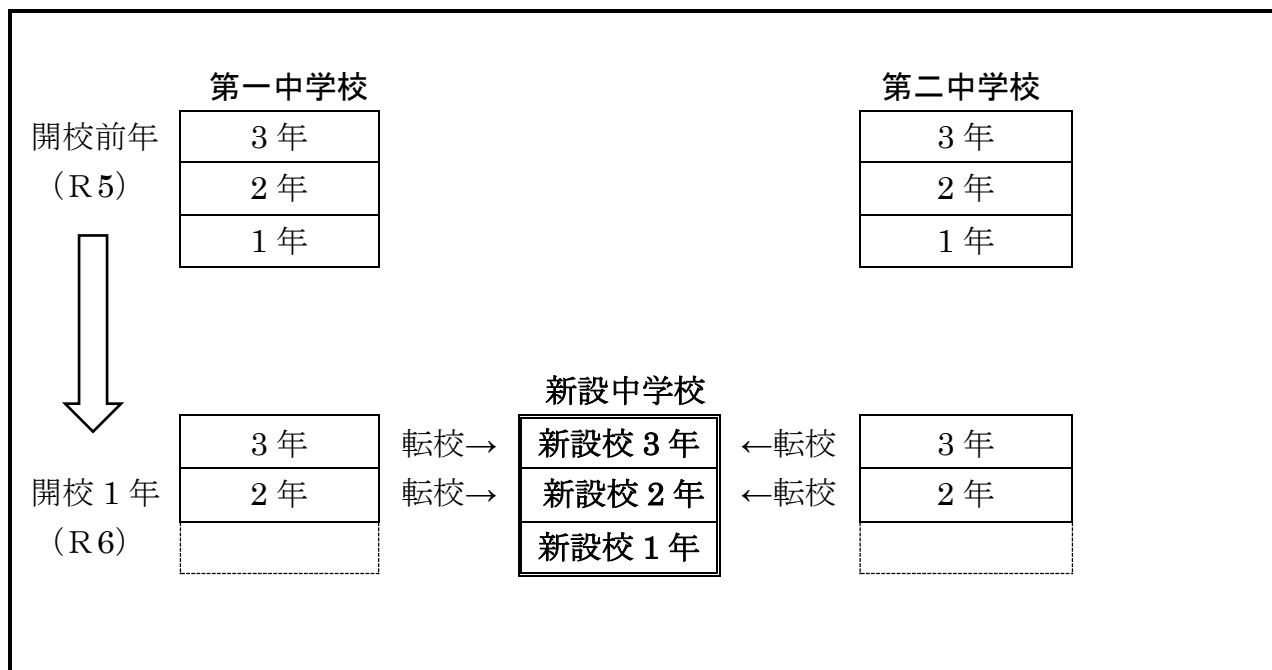
これまで津久見市の統合は、極小規模となった学校が、比較的大きな学校の方へ吸収合併されています。



4. 統合の手順

統合の手順は、次の方法とします。

統合方式



- ①新設中学校開校前年までは、生徒は第一中学校と第二中学校それぞれの学校で生活する。
- ②新設中学校開校 1 年目（初年度）に新 1 年生が入学する。
同時に、第一中学校と第二中学校の新 2・3 年生は、新設中学校に「転校」する。
- ③第一中学校と第二中学校からの「転校」にあたっては、制服や体操服などについて、柔軟に対応する。
- ④その他統合に伴う様々な課題については、（※）新設中学校開校推進協議会を設置して、十分協議する。

（※）新設中学校開校推進協議会とは、新設中学校開校に向けて、保護者・学校・関係機関の代表者などが協議する組織。

5. 開校場所

開校場所は、現在の第一中学校の校地とする。

<理由>

- 敷地面積が広い。
- 共同調理場が隣接している。
- 平成 24（2012）年 10 月完成の体育館をそのまま利用できる。
- 近くに津久見高校・市民図書館・教育委員会があり、連携しやすい。
- 津久見中央病院に近く、有事の際に搬送しやすい。
- 現在、通学している生徒数も多く、遠距離通学の変更が少ない。
- 大型バスの乗り入れも容易である。
- 既存の施設を一部利用することができる。

6. 開校時期

開校は、令和 6 年（2024 年）4 月 1 日を目標とする。

<理由>

- なるべく早く教育環境を整備するため、財源措置が可能な限り早期に開校したい。
- 国への補助金申請や建築設計・工事期間等を総合的に勘案して、令和 6 年 4 月の開校を目標とする。

（令和 6 年 4 月に開校となれば）

令和 3 年 4 月現在

小学校 4 年生	→	新設中学校	新 1 年生	入学
小学校 5 年生	→	新設中学校	新 2 年生	転入
小学校 6 年生	→	新設中学校	新 3 年生	転入

7. 校舎・学校施設

**既存の学校施設を活用し、新しく必要な施設については増築する。
(大規模改修)**

<理由>

- 耐震工事が終了している校舎を可能な限り活用できる。
- 現存する体育館や共同調理場との連絡通路が利用できる。
- ローリング方式等、工事手順の工夫により、仮設校舎を建設せずに改修を行うことで、工事期間中の支障が少なくなる可能性がある。
- 「津久見市では最後の中学校となるので、ハード・ソフト面でもよりよい学校をつくってほしい。」という市民からの意見・要望が強いことから、できるだけ充実した教育環境となるように大規模改修とする。

8. 跡地利用（現第二中学校地）

公民館などの公共施設や防災施設の拠点、さらには地域の活性化につながる施設となるよう、関係各課と協議する。

<理由>

- 現在の公民館が老朽化している。
- 平成 27（2015）年 11 月に改築工事を終えた新校舎は今後も十分に活用できる。
- 体育館やグラウンド、テニスコートが併設され、生涯スポーツ施設として活用できる。
- 砂防ダムも完成し、防災施設としての機能を兼ね備えることができる。
- 教室・家庭科室・技術室などを開放することで、カルチャースクールとして利用できる。
- 市民が集う場所として地域コミュニティの場として活用できる。
- その他、多目的な施設として活用できる。

Ⅲ 津久見市が目指す学校施設5つのコンセプト

(1) 学びたい意欲を引き出すことのできる学校

生徒が快適な学習環境の中で、心身ともに健康な学校生活を送ることができる施設を目指します。

(2) 特別支援教育、少人数指導等、多様なニーズに対応できる学校

多様化する教育内容への対応や児童・生徒数の減少を見据えた機能性・柔軟性の高い施設を目指します。

(3) 明るく清潔で、生徒も教師も快適に過ごせる学校

採光、通風、換気、温度、遮音に配慮し、学習の場だけでなく、生徒の居場所として、温かみがある教室を目指します。また、教職員が協働し、各々の教育力が発揮できる、働きやすい環境を目指します。

(4) 安全・安心な学校

ユニバーサルデザインや防犯対策など生徒が安全・安心に生活できる施設を目指します。

(5) 地域とともにある学校

津久見の子は津久見で育てる環境を充実するため、津久見高校との連携を強め、学校と地域住民との交流が図りやすい施設とともに、地域の避難所機能を備えた施設を目指します。

Ⅳ 開校までの学校施設整備スケジュール

